

第7回安芸高田市総合計画審議会議事録

第7回安芸高田市総合計画審議会	
日時	2025年11月10日(月)午後3時～午後5時
場所	安芸高田市民文化センターマルシンクリスタルアージュ小ホール
出席者	別途委員一覧参照
資料	【資料1】第3次安芸高田市総合計画基本計画(案) 【資料2】第3次安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案) 【資料3】委員意見対応表

発言者	議事内容
	第3次安芸高田市総合計画基本計画(案)【資料1】 委員意見対応表【資料3】
A委員	資料1の14ページの17行目で、交通結節点のところ。鉄道駅、バスセンターからの2次交通となっているんですけども、この表現はバスセンターで良いのですか。
事務局	バスセンターとなると吉田のバスセンターになるのかなと思うのですが、高速バスで同じものを指していると捉えにくいのですが、ご意見を伺いたと思います。
A委員	公共交通計画ではそうなっているというのは、今認識したのですが、これをぱっと見たときにバスセンターといたら、吉田のバスセンターになるかと思うので、誤解のない表現にされたらいかがかと思います。
事務局	では、注釈で対応したいと思います。
会長	資料1の9ページ目の31行目に地域振興組織という言葉があり、10ページ目の13行目に地域振興会という言葉があります。これは別物という理解でよろしいでしょうか。
事務局	同一のため表現を地域振興組織に統一いたします。
会長	今回、目標指標と目標値のところ、現況値と目標値が入っていないのですが、これはそのままパブコメをかけるという意味でしょうか。
事務局	現状ではそのように考えています。
会長	素案の段階で現況値も目標値もなく、さらに、算定方法も書いていないため、一体全体この指標は何なのか、わからないのではないかと思います。
事務局	パブリックコメントまでには数字は入れるようにさせていただきます。
A委員	48ページの27、28行目の目標指標のところ、農業産出額のところを指摘したのですが、これは産出額というと売り上げの積み上げになるかと思っています。ここでいう稼げる農業の実現をうたっているときに、売り上げは上がっているのだが資材コストも上がっていて、儲けが全然上がってないという状況も、この農業産出額を追っ

事務局	<p>ている限りではわからないと思います。結局、持続できず、辞めてしまおうという話になってしまっは農業産出額が上がっていたとしても意味をなさない。</p> <p>そういったところで純利益を提案しているのですが、おっしゃるとおり、個人は入ってこないが、法人で儲かる農業ができていのであれば、それを追いかけるべきではないかなと思う。つまり、農業指標を見ている、課題が解決しないのではないか。このあたりについて見解を伺いたいです。</p> <p>見解については資料に書いているとおり。対応といたしましては、農業産出額と経済センサスの付加価値額の併記で対応させていただきたいと思います。</p>
B 委員	<p>資料3の3ページの3段目です。教育委員会学校教育課も追加しますと書いてあり、そのあとに、最終的にかっこの課名は削除いたします。とありますが、これはどういうふうに捉えたらいいか聞きたいです。</p>
事務局	<p>今、基本計画のなかで、墨付きカッコでどの担当課が担っているかということが示しているが、公表する段階ではすべて削除することを考えています。</p>
A 委員	<p>この付帯表、資料3のところでもいろいろな意見がある中で、それを受け入れて変更している内容と、受け止めたけど、それはこういうことだよということで、受け入れずに対処しているところもあると思います。17ページのところ、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある。受け入れるというのは、全部受け取らないといけなないわけで、過去にこのようなアンケートを取ったから、この指標になっているのだと思いますが、やはり目指すべき社会の姿として、受け入れるといたら、自分の意見はなぜ受け入れないのだという話になってしまうと思います。しっかり受け止めたうえで対話をし、落としどころを決めていくのが大事だと思います。そういった点でこの指標でいいのかというのは、改めてお伺いしたいです。</p>
事務局	<p>今回のアンケート調査票ではこのように表現はさせていただいたのですが、次に取るときには、「受け止める」で対応させていただきます。</p>
A 委員	<p>26ページで、スポーツのところは文化をとということなのですが、この施策分野でスポーツとあって、そこに文化が少し引っかかっているような位置付けになっていたと思いますが、やはり施策分野として、スポーツ・文化で併記すべきではないかと思ひます。このあたりについて見解を伺いたいです。</p>
事務局	<p>委員のおっしゃるとおりのため、そのような対応をいたします。</p>
A 委員	<p>36ページ、32行目のコミュニティ・スクールのところで、学校が進めることだと思いますが、行政としては、どのように関与していくのかというところが見えないと思ひます。どのようにコミュニティ・スクールの推進していくのでしょうか。</p>
事務局	<p>コミュニティ・スクールに市がどのように関わるかというところですが、もちろんまったく市が関わらないというところではないのですが、過程としては、基本的には学校が、ということだそうです。ただ教育委員会の関わり部分をもう少し記載するかなど、確認をし、それを文章の中に入れてさせていただきます。</p>

A 委員	<p>学校運営協議会の話が出たのですが、まさに私も学校運営協議会の委員を務めています。ただ、年に4～5回、会議があって、そこで学校の評価の仕方や課題についても議論をするのですが、それが地域全体のことにはまだ全然なっていない。ただ方向性としては地域全体で子どもたちの育ちを見守っていくとか支えていく必要があるだろうと思っています。そこにどうつなげていくのか。その青写真がまったく見えていないのが現状じゃないかなと思っています、そのかたちで示す必要があると思います。</p> <p>確かに年間の運営等は学校単位で考えるべきと思いますが、地域全体と学校をどうつなげていくかという青写真はやはり行政で持つべきだと思いますので、そのあたりはお示ししていただければと思います。</p>
事務局	趣旨もよくわかりましたし、今、話をしてきたところがその部分だということも確認しましたので入れさせていただきます。
C 委員	19 ページ、18 行目。第3次中期経営計画とあるのですが、これは来年3月に完成予定であり作成中です。第3次の地域福祉活動計画は本年の3月に完成していますので、表記を修正してほしいです。
事務局	修正・更新いたします。
会長	企業誘致について、政策統括監を新設し、企業誘致を特命していることは、もう特命というか何かアクションを起こされているのでしょうか。
事務局	新たな部署が新設され、動いています。
D 委員	いつからあるのか。
事務局	この4月からです。
D 委員	人数や予算など規模はいかがか。
事務局	人数は3人です。
D 委員	期間は4年間なのですか。
事務局	4年というのは、この計画が4年間ということになっているため、それに合わせています。その組織が何年間ある予定かは、今のところは決まっていません
D 委員	ゴールはどこか。例えばどのくらいの企業をどのくらい誘致するだとか、そういうスケジュールはあるのですか。
事務局	個別の指示で詳しいところまでははっきり把握できていません。今、指示が出ているのが企業誘致ということです。これをしっかりやっつけようということで動いています。
D 委員	もう年度も半分も過ぎているのだが、ぼやっとしか聞こえない。それと企業誘致は、デジタル系企業の県内への誘致、デジタル企業の誘致がメインでしょうか。
事務局	デジタル企業に特に力を入れるというのは広島県の方針になります。それに基づいて動いているが、あまり具体的などころにはなっていないです。ただ県と連携してやっつけていく中で、デジタル企業に絡めた動きというのは出てきているかもしれません。
D 委員	デジタル企業はどんどん市に入れるというのは大変好ましいことだと思いますが、

	<p>それ以外に、働く人が増えるような、人口が増えるような誘致のほうがもっとメリットがあるのではないかと思います。例えばこれは大型企業だけど、国の研究機関の誘致等は手が出せないのか。国の研究機関の、土地だけは、土地と山だけはたくさんあるため、うちに研究機関のような施設をつくってくれとか。そういうようなアプローチは、いろいろあるのではと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。具体的になって発表できる段階にならないと、こういうふうなところがありましたという事業の発表にならざるを得ないのがこの分野であります。方向としてはこういう企業誘致は大事なのでやっていくと計画に乗せるのが精いっぱいのところはご理解をいただきたいと思います。</p>
D 委員 事務局	<p>市で産業振興計画をつくる予定はあるのでしょうか。 今は聞いていません。</p>
会長	<p>資料1の44ページに企業誘致、企業支援の促進の最初に、企業立地奨励条例によるとありますが、これは市の条例ですか。</p>
事務局 会長 事務局	<p>はい、市の条例です。 関連計画にも書いていないので、書けるのであれば書いた方がよいかと思います。追記します。</p>
A 委員	<p>25ページの12行目に三セクの健全な推進と書いているのがあり、施設の改修や修繕を計画的に実施しとあります。これは指摘したところですが、これに対する答えが安芸高田市個別施設計画公共施設編ということで。これは公共施設の面積、床面積の統廃合に関する計画で、いつ廃止するか、廃止せずに継続するかということを書いてあるかと思いますが、改修や修繕の計画がここに書いてあるとは思っていません。認識が違えばそのように言っていただければと思いますがいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>認識とすれば、おっしゃるように、この施設編のなかに修繕等の計画は入っていません。</p>
A 委員	<p>であれば、ここで指摘しているのは、そういう（改修修繕の）計画をつくることを計画として挙げるべきではないかと言っています。その点をご検討いただければと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>そうですね。この施設をどういうふうにするかという画が必要であり、それを示すべきだと考えております。</p>
A 委員	<p>三セクに限らずですが、文化施設にしてもエアコンが故障して直っていないところもあり、産業施設です。こちらも同じようにエアコンや、ボイラーが故障したりなどで温泉が使えないとかそういうことはこれから増えてくると思います。それを場当たりに壊れてから修繕していくのではなく、定期的に修繕していくということを考えていかないといけないと思います。そのような計画がなければ作成する必要があるのではないかと、さらにそれを総合計画に盛り込むべきではないかという指摘です。</p>
事務局	<p>そうですね。計画、目標指標のなかに入れるかどうかというところは現課に確認が</p>

いるのですが。少なくとも文章に将来継続していくために必要な将来の姿を示していく計画をつくっていくこととなるでしょうけど、そういったことをこの文章に入れることは少なくともやっていきます。指標では、その計画をつくれば終わりになってしまうので、そこを入れるのはどうかと思いますので、文章に明示するかたちで対応したいと思います。

E 委員
事務局

今、安芸高田市の第三セクターの事業というのは何か所くらいあるのでしょうか。ここで挙げている、観光施設などというふうなことでいくと、神楽門前湯治村と道の駅三矢の里あきたかたの2か所になります。

E 委員
事務局

これを読みますと安芸高田の魅力というものは、第三セクターいいですか、そういうのを模索するような働きもしていますでしょうか。今の状態を修繕したり、保ったり、健全化する以外に、新たに開拓するような動きはあるのでしょうか。そこが今、A委員が指摘された部分で。そこをしっかりと書き込むべきだと思います。今、そういったことをやっているかということ、なかなか個別には修繕に手が回っていないというのが現実に見えていますので、おっしゃるとおり、そこは必要な取り組みとしてここに入れていきたいと思います。

第3次安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）【資料2】
委員意見対応表【資料3】

F 委員
事務局

この審議会は、どこまでやるのでしょうか。個別の案件は市が決め、市の方で進めていくのか、個別の案件も、私たちが関わっていくのでしょうか。この審議会は、基本計画や総合戦略等を作成する会です。そして、来年度以降は、その進捗管理を審議いただく審議会になってきます。個別案件につきましては、いただいたご意見を基に担当課で実施するかしないか今後、検討していきます。

会長

資料1の1ページ目にA3横で、一番右に重点プロジェクト、この重点プロジェクトが総合戦略重点プロジェクトとして位置付けると書いてあり、その重点プロジェクトという言葉が資料2には読んだ限り出てこないような気がします。その関係性がよくわかりません。おそらく資料2にいくと、基本目標1、2、3、4と書いてあるのが、重点プロジェクトと同じ文言になっているので、それがそうなのかなと思ったので、その関係を教えてほしいです。

もう一つ、33ページ以降、資料2の33ページ以降に、リーディングプロジェクトがあり、これはおそらく重点プロジェクトとはまた違う言葉でそれぞれの基本目標ごとにリーディングプロジェクトを掲げている。例えば基本目標1であれば企業誘致の促進がリーディングプロジェクトになっているんだと思うのですが。基本目標2以降は、各表の施策名称というところにリーディングプロジェクトの名称が入っているんですが。33ページは企業誘致の促進という言葉が、この表24のリーディングプロジェクトの中に入っていないくて、これは関係性がわかりません。そのあたりをパブコメまでに整理してもらえますでしょうか。

事務局	<p>ありがとうございます。全体像が理解しやすいように修正させていただきます。まず重点プロジェクトは第3次安芸高田市総合計画基本計画の人口減少対策地方創生の取り組みのための重点プロジェクトということで、資料2が該当します、重点プロジェクトということで。総合戦略が重点プロジェクトという発想になっています。</p> <p>また、リーディングプロジェクトは重点プロジェクトの中の各基本目標を進めるうえで、核となり先導的な役割を果たすプロジェクトということで目玉プロジェクトの位置付けで定義させていただいています。</p> <p>そして、企業誘致の促進について、リーディングプロジェクトの表の中に入っていないということですが、これは企業誘致の促進ということが、若者が働ける、挑戦できる環境づくりという言葉になります。修正いたします。</p>
会長 事務局	<p>総合戦略が重点プロジェクトという理解でいいのでしょうか。</p> <p>その理解で整理をしています。</p>
会長	<p>そうすると資料1の1ページ目の、この重点プロジェクトの書き方は、資料2の総合戦略概略、人口フレームだとの話があり、そのあとに基本戦略で目標の1、2、3、4と4つの言葉があり、この1、2、3、4という言葉が資料1の重点プロジェクトのなかに書かれたというのは、そういった意味では重点プロジェクト、イコール、総合戦略案であれば、ちょっとこれは書き方を変えないと、基本目標の1、2、3、4が重点プロジェクトに見えてしまうので、整理をしていただければと思います。</p>
事務局	<p>整理させていただきます。ありがとうございます。</p>
B委員	<p>大変細かいことで恐縮ですが。34ページの道の駅等拠点施設を活用した関係人口相談窓口の整備ということが、これは誰が採用される業務、計画なんでしょうか。</p>
事務局	<p>行政になります。行政が道の駅と協議しながら進めていきます。</p>
B委員 事務局	<p>行政職員がそこにいくということでしょうか。</p> <p>具体的な内容については今後の検討となります。</p>
会長	<p>資料2の34ページの詳細取り組みの上から2つ目の黒丸のPPP・PFIスキームの文書の先ほど修正があった関係人口案内所の収益化を目指しますというところですが、これはどういうイメージなのでしょう。案内所が収益を取るは、案内したら1,000円をもらいますとか、。どういうイメージでしょうか。</p>
事務局	<p>この関係人口案内所では地域体験ツアーの造成をしていきたいと考えております。</p> <p>その利用料金で、この関係人口案内所の運営コーディネーター1人分の人件費を賄えるぐらいまでいけたらという意味合いで収益化ということを想定しています。</p>
A委員	<p>35ページの帰ってきたくなる学びづくり、学びのまちづくりの、かっこの2つ目です。未来チャレンジ探究学習の充実の1行目の最後のところ。課題解決に向けた探究学習のすすめと書いてあるんですけども。この探究というのは課題解決が、必ずしも課題解決じゃなくていいのかなと思います。そのあたりは、文言の整理がで</p>

事務局	<p>きていますでしょうか。</p> <p>教育委員会で示している資料を基にそのまま引用しておりますので、このままでよいと思います。</p>
A 委員	<p>興味のあること、深掘りしたいことを研究していくのが探究だろうと思います。興味・関心に基づいて始まっていくのが探究なんだろうと思いますが、必ずしも課題解決である必要はないのではないかというのが、私の認識です。</p>
事務局	<p>課題解決に向けたというところで、今のような指摘があったということを伝え、確認のうえ、必要があれば修正します。</p>
G 委員	<p>今まで何十年も守りをしてきた施設そのものが、老朽化していき、このままだと朽ちていくのをわれわれは見ないとはいけません。</p> <p>確かに安芸高田市には宿泊施設がないですが、うちのところも交流人口を増やすということで、宿泊施設を、子どもを対象にした部屋もつくったわけです。そこらが、風呂がなくなったということで、使用できない。せっかく地域をみんなに知ってもらいにも、お金がないということで、なかなか直さない。。今から建ててくれというのも大変だろうと思います。建てた施設をどのようにこれから維持していくかという計画が欲しい。八千代にある施設もそういうことを言われましたし、美土里のある施設もそういうことを言われる。障害者の方が車いすで来られて、その便所がなかった。2年前にも来たのにない。やっと、3年ぐらいなってからやっていただいたということで、非常に喜んでます。地域の願いというのは、まちの中心だけでなく、合併したときに対等の合併ということで合併しとるわけですから、本当に重箱の隅から隅まで、細かな施策をやることをお願いしたい。それだけのものをこの計画のなかに入れられないのか。これから計画をつくっていただけるのかを聞きたい。</p>
事務局	<p>そうですね。施設の本来のある役割をもう一度しっかり考えて、そのようなかたちに市としてもっていけるようにということを書いていっていきうようになると思います。</p> <p>今ある施設をどのように生かして、活用していくかというふうなところの書きぶりとしては13ページのところに公共施設マネジメントの推進というふうなことで書いてあります。これはどういうところに書いてあるかという、若者に選ばれるまちづくりというところにあります。移住者をどのように入れていくかという目線で、関わる人たちは、行政であり、地域事業者、地域コミュニティ、移住者を意識した施策のところに書いてあります。</p>
G 委員	<p>それに向けては、なおさら難しいのだろうと思います。せっかくお金をかけて、地域を元気にするというものですから、拠点の管理ができていいるのも、自分らが管理しているから。今でも毎日、奉仕作業しているわけです。奉仕作業に銭をくれというのではなく、奉仕作業は奉仕作業、施設が朽ちていくのを見て、泊まる施設があっても、これはできないという、本当に寂しさというものを抱えながら、この地域の者は生きていくということです。新しいところをまた拠点にして、やりますという事は、わかっているのですが。これはしっかりしてもらいたいです。</p>

事務局	<p>公共施設マネジメントの推進というのが、移住者のところに書いてありますが、このあと、また移住者や子育て世代になって、そのあと、ほかの主体の方も全部入っていく。そこにすべて関わってくると思います。</p>
副会長	<p>非常に切実な話で、全国、皆そうだと思いますね。基本計画、総合計画に PPP・PFI というものがたくさん出てくるので、それを推進している 1 人の立場なのですが、例えば、この安芸高田市が今まで経済事業をしたことがあるのですかと聞きたいです。もちろん PPP 事業は三セクとか指定管理、そういうことでやってこられたと思うのですが。PFI 事業という民間に公共サービスの囑託をした経験はこのまちにはないんですよ、おそらく一例も。道の駅一つとっても。ましてや、ここに書いてある PPP・PFI の実績はこのまちはゼロです。例えば、今日も PPP のディスカッションをしている会議をしているんですね。そのなかで、例えば公共施設を管理維持するために、これまでは民間の三セクの方、指定管理の方、ボランティアの方が支えているんだけど、やっていけないよという方ばかりです。雨漏りがする、設備が古いという部分。これから、じゃあ、それをどうやっていくかということですが、それはやっぱり大規模修繕するなり、建て替えて、次の世代につなぐことをしなきゃいけないときに、そのお金はどこから出てくるんだという話です。自治体が借金をしてでもやるか。要するに市債、地域で。それから国の助成金を持ってくるか。いろいろなシフトでもって、PPP・PFI というのは進んでいくわけです。そのときにこれから投資をするわけです。PFI の F というのは Finance、投資をするわけです。仮に将来に向かって回収できるよというビジネスプランを官民がきちんと合意形成しなきゃいけない。PFI の手法で例えばある公園を、そこは収益ないですよ、基本的には、公園ですから。ところがそこに、一つはプロのスポーツチームが利用をするということで、20 年間、あるいは 15 年間、利用しますということの契約を結ぶことによって、じゃあ、芝生にしてくれということになれば、市は芝生をするだけの投資をするんです。それで 15 年、20 年先、ここが利用してくれるという合意形成をして、ちゃんと投資をしたものに対して回収できるというビジネスプランをつくって行って、こういう投資をする。例えばネーミングライツ一つとして、年間、例えば 100 万円を企業から。そういう収入というか、ビジネスモデルを持って、公的施設なり、あるいは公園なり施設を維持するビジネスプラン、ビジネスモデルというそういう仕事を今まで、このまちは一回もしていない。新しいものをつくるときには、よく地方創生、いろいろなお金を持ってきて、パーンと温泉をつくりました。管理維持は三セクがやりました、大規模修繕のプランはなかったです、だから設備でどうする？みたいな話になり、企画をどうしようかというのは切実な問題な状況です。つまり、現時点での話からスタートして、将来、次の世代に対して、どういうふうにお金が回収できるような投資をするかということの決断をしなきゃいけないと思います。これは市民と行政というチームで。それから例えば最後にもう一つ言いますと、コンセッションという PPP の手法があります。例えば広島県でいえば、空港が大きなコンセッションで、あれは民間が経営しています。航空管制は国がやっているとしても、駐車場とかですね。今、あんな大きなものじゃな</p>

くてもある小さな市では、廃屋になりそうな民家を町と商工会議所が投資をして、そこを宿泊施設にして、人を呼ぶというビジネスモデルで小さな建物のコンセッション、維持管理というのを、これはPPPという手法でやります。これらの中でPPP・PFIがふんだんに使われている理由はそこにあるんだと思います。解決方法の一つ、手法です、これは。すべてはできないんですよ。やっぱりいいところをみんなが選んで的確に検討する必要があると出てくる。それからもう一つ、例えばコーディネーターという名前がいっぱい出てきます。本来は役所の職員がコーディネーターなんですよ。もう一つは、コーディネーターは2つの組織なり、2つの何かをすべて調整するという、コーディネートするわけですけども、例えば具体的には出雲市の例を見ますと、出雲市の若い人が広島に来て、広島、あるいはそのほかに就職してしまっただけで帰ってこない。これを調査して、帰ってくるようにどうしたらいいかということで、新しいコーディネーターをつくと。どういうふうにするかということ、出雲市内の中学・高校と、それから出雲市にいる企業と、それから広島市の私立の大学の人たち。それらをコーディネートします。そうすることによって、年間目標が150人ほど毎年、出雲市出身の若い人が広島から帰るようにしよう。こういう目標を立てている。そのためのコーディネートで単に学校だけのコーディネーターだけとか、そういうレベルじゃなくて、世代間を超えて、分野を超えたコーディネーターと言います。それには、その期間だけ公務員になっていただいて、それはたぶん先ほど出た、関係人口のビジネスプランというような、そこで収益を上げることはないんです。完全に市がお金を出して、そういう人材を3年間なら3年間、4年間なら4年間、雇用して、役場の職員としてコーディネーターをすると、そういう人材をつくっていくことなので、今までのコーディネートの仕方が平面じゃないんですね。時間的にも縦軸になったりとかするんですね。コーディネートの守備範囲を指定しなきゃいけないと思います。新しい人材を雇用するんです。つまりそれが必要であれば、重点的にはそこで収益を上げることはできないんじゃないですかね。インテリアコーディネーターだったら、まだ施主がいて、建材関係の方がいて、普通、モノが流れますから、その中の収益でもって、コーディネーターとしてのお金が入りますけども。このプランで、ビジネスモデルが成り立っていくつもりはないと思うんですね。物流在庫は別ですけど、ものはない。というようなちょっと気がしているんですよ。もう少し、PPP・PFIについて、これまでの実績とこれからやろうとする腹をくくってほしいなというのは期待です。

A 委員

資料2の2ページです。第2次総合戦略の振り返りとあり、目標値、実績値とあるのですが、ここの評価はどうなっていますか。数字は出ていますが、これについてどう評価していて、何が課題となっているのか。そのあたりがまず必要かなと思います。

事務局

データとしては載っていますが、ここに評価がきちんと入り込んでいないので追加させていただきます。

A 委員	<p>PDCA のところで、Plan して、Do したので、Check をして次の Action にもっていかない。今、次のアクションを考えているわけで。そこで評価を抜かして先には進めないのだろうと思います。指摘もしたのですが、2 ページの表の一番下の 4 です。策定時、2020 年が実績であって、その実績値がそれよりも 2018 年になってしまっているところが、やっぱりわからないと思います。プランを策定したときの数字よりも昔の数字を実績値として挙がってしまっている。ここは今、説明があったので、わかったんですが。必ず注釈をつけとく必要があると思います。それから、基本目標の 1 です。合計特殊出生率が目標値に対して、実績値が 2021 年の段階で大きく下回っていて。この辺は評価が必要なんだろうと思います。ここを 37 ページと照らし合わせて、37 ページに各基本目標における数値目標の設計を、今回、第 3 次に対して行うわけですが。合計特殊出生率を見ると、単位が変わっているとか、この見方がわからなくて、ここも説明をいただかないと、つながってこないのをお願いします。</p>
事務局	<p>振り返りの部分は追加させていただきます。合計特殊出生率と目標値の子ども女性比の部分ですが、合計特殊出生率が毎年把握できる資料ではないということで、その代替資料として、この子ども女性比というものを目標値のところでは、今回の目標値の部分では掲載させていただいていました。ただ、合計特殊出生率と子ども女性比も、子ども女性比がこの 0.21 だったら、合計特殊出生率はこれぐらいの値、のように対応的な数字も示したりすることができますので、そういった併記をするかたちで、つながりを示していけたらと思っています。</p>
B 委員	<p>17 ページと 18 ページで、市外からの通勤者をターゲットにさせていただいてありがとうございます。18 ページの施策を見ていくと、なんていうか、市外からの通勤者が安芸高田市に移住に関心を持っている前提でつくられているような施策ばかりで。イメージとしては、安芸高田市で働いているのに安芸高田市で住みたくないと思っている人をどれだけ移住に関心を向けさせるかというのが大事だというふうに思っていますので、そこら辺をまた考えていただけたらと思います。</p>
事務局	<p>検討いたします。</p>
H 委員	<p>安芸高田市で働いていて、そもそも安芸高田に住んでいて、よそに移住されて、仕事は安芸高田で続けておられる。そういう方もけっこういらっしゃる。そういう方へアンケートを取るなど、考えていただいてみたらいかがでしょうか。</p>
会長	<p>たぶん企業アンケートを実施するときに、現在の住所や、前回のここに住んでいましたとか、そういう項目を 1 個入れると、これはできると思うので、ぜひともそれはしていただきたいと思います。感覚的にここ、安芸高田市に住んでいたんだけど、今、広島市内に引っ越したという人は、けっこういらっしゃる可能性もあるので、そこはお願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>今回の企業アンケートで、その項目も入れております。 転出した人に聞くと、広島市で高い生活利便性を求めているというのが、当然、高かったというところはございます。ただ、そういう人はしかたないという部分はあ</p>

会長	<p>ります。継続的なアンケートは取っていかうと考えて、引き続き注視していきたいと思ひます。</p> <p>資料5の2の11ページに推進体制という、公民連携するというイメージが書いてあるのですが、これが本当にできるかがたぶん肝になるので、そういう意味では戦略として書くと、これはやらないといけなくなるので、本当にこれができるのかどうかというのは、少しよくお考えいただいたほうがいいかなと思ひます。こういっておそらく推進体制の取り組みは必要だと思ひるので、検討いただきたいです。全体的な柱立てというか、項目については特にご意見はなかったのですが、誤字脱字だったり、整合性だったりというところで、まだ気になるところは、たぶん皆さん、ありそうなので、そのあたりは事務局で整理をいただいて、対応いただくというふうにしたいという、いただければと思ひます。</p>
H委員	<p>すみません、先ほどの質問で、その人たちはしかたがないという言われ方を、ちょっと気になっていて。それはもう諦めてもいいということですよ。安芸高田市をもっと魅力あるまちにしようということじゃなくて、要するによそのほうが、魅力があるからしかたがないよねという。それでいいんでしょうか。</p>
事務局	<p>失礼いたしました。深い意味でそういったわけではないので、今後しっかりとそこは検討して転出抑制という観点から、検討させていただきます。</p>
副会長	<p>資料2の、先ほど会長からお話があった、11ページの上に公民連携組織のイメージと、これはうまくまとめてあって、そのとおりだと思ひます。公民連携が割合進んでいるところの自治体はどういうところかなと振り返ってみると、鳥取県を例に見ても、首長がPFIをやるぞ、PPPやるぞと言えば、ずいぶん進むんですよ。それからもう一つ、鹿児島県の離島の市役所には、市役所の中に地域連携推進室というのを作って、そこに職員を張りつけているんです。会議に行きましたら、一つの会議に議員と、役場の部長クラスと、それから民間の土木技術事業者と一緒に議論している。そういうふうな役場の中に組織として、公民連携推進室を作っている。これは役場で勝手にみんなやっているわね、みたいな、他人事みたいなイメージは必要がない。中身はすごくいいですよ。誰が主体でやるのかということですよ、公民連携を。やっぱり役場が推進すれば市民はみんな、ついてくるはずなんですけどね。そここのところの情熱が見えない。例えばどこか総合計画のなかに、組織としてこれを役場に推進室をつくる、何人輩出するといったら全然違うことになる。お金もついてくる。国はそういうところにお金をつぎ込む。民間がやってほしいということもないし、行政と一緒にやりましょうではなく、やるぞというパッションが見えたらいいんだと思ひます。</p>
会長	<p>11ページの図のなかで、安芸高田市、（関連主体）と書いてありますが、たぶん回り出したら関連主体なんでしょうけども、最初のところ、回り出すまでの歯車を、思いっきり力を込めて、動かすところは、副会長がおっしゃったように、どういふふうにここの体制をつくるのか、回すのか。そのあたりも併せてご検討いただく必要があるかと思ひます。</p>

